

社会資本総合整備計画

ひなぐちく
日奈久地区都市再生整備計画

平成23年3月15日

熊本県 やつしろし
八代市

都市再生整備計画(第3回変更)

ひ な ぐ
日奈久地区

くまもと やつしろ
熊本県 八代市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	やっしる 八代市	地区名	ひなく 日奈久地区	面積	686 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標 **大目標：『歴史の香りと温泉情緒が漂うもてなしと元気に満ちたまちづくり』**

目標1:	温泉センターを核とした雰囲気づくりと、おもてなしの心を大切にしたもてなし空間を形成する。
目標2:	埋立地内のイベント広場を舞台としたスポーツ・レクリエーション活動を通じて、新たな交流によるにぎわい空間を形成する。
目標3:	住む人々が元気で、安全・安心に暮らせる良好な生活環境の形成を図り、住みたい・住み続けたい快適空間を創出する。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況

・本地区は、本市の中心市街地の南約8kmに位置し、本市の主要な幹線道路である国道3号が地区中心部を南北方向に縦貫している。また、地区西側の八代海(不知火海)沿いには南九州西回り自動車道が、さらには、山沿いには、肥薩おれんじ鉄道がそれぞれ国道3号と並走しており、交通利便性に優れた状況にある。

・日奈久温泉については、県下で最も古い歴史を持ち、地区の中央部を薩摩街道が通り、その沿道の一部には、温泉施設や旅館等が立ち並び、歴史と風情を今もなお残す町並みが残っている。その成り立ちは、約600年前の1409年に浜田六郎左衛門により発見されたとされている。当時は、1ヶ所の共同浴場という状況であったが、入浴客等の増加に伴い、幾つもの内湯を持った旅館が建ち、旅館街が形成され活況に満ち溢れることとなった。

・しかし、昭和45年の約304,000人をピークに宿泊客は減少し続け、平成18年の調査では21,352人まで落ち込んでおり、日帰り客についても昭和45年の185,000人をピークに増減はあるものの、平成18年の調査では91,999人にまで減少している。

・その理由としては、以前は、温泉地間の競争が少なかったが、昭和50年くらいから、県内各地で新たな温泉発掘が行われ、建物の近代化や施設の充実等、温泉地間の競争が激しくなってきた。また、観光客のニーズも変化し、本地域がそうしたニーズや競争に対応しきれない状況に陥ったことが考えられる。

・さらに、温泉街の衰退とともに、日奈久校区全体の人口も昭和45年の6,713人をピークに減少し続け、平成18年の調査では3,722人まで減少している。

・このようなことから、平成16年度には、日奈久地域活性化検討委員会が設置され、日奈久地区の再生を図るために実現可能な具体的方策の提案に向けた検討が12回にわたり行われ、平成18年5月に「日奈久まちづくり羅針盤 ～歴史の香り漂うまちづくりに向けて～」が提案された。この提案を受けて、地元住民や団体が構成する「日奈久まちづくり協議会」が設立され、地域住民自らがまちづくりに取り組まれている。

・平成19年度から、熊本高等専門学校 八代キャンパス(旧:八代工業高等専門学校)との連携により、本地区のまちづくりに学生らと取り組むなど地元・学・行政の連携によるまちづくり活動を推進している。

課題
●九州新幹線鹿児島ルートの中線開通を控え、県内外からの観光客などの流入増加を目指し、日奈久地区の賑わい、活力の再生を図るため、温泉などの観光資源の活用による魅力アップと新たな交流空間の創出を図るとともに、地区全体が元気で、安全・安心で住みやすい生活環境の向上に向けた取り組みの実施が必要である。

・日奈久の観光資源を活用した観光振興策の展開によるかつての賑わいの再生が必要

日奈久地区は、本市の観光の中核であり、日奈久温泉開湯600年(平成21年)に向け観光のシンボルとなる温泉センターの建替えにあわせた温泉街等との連携による新たなサービスの提供や歴史的建造物等の観光資源を活用した施策を早急に検討し、実行していく必要がある。

・日奈久埋立地における新たな交流拠点の形成が必要

道路などのインフラ整備をすることで未利用地である埋立地に多目的広場を有する公園の整備や民間企業の立地による集客施設としての効果を最大限に活用し、そこを起点として低迷する日奈久温泉街を中心とする当地区の活性化を図る必要がある。

・安全、安心な生活環境の形成や地域の活動拠点の整備が必要

日奈久地区の再生にあたっては、観光客や来訪者による賑わいを創出するだけでなく、安全で安心な居住環境や文化、コミュニティなどの豊かな生活空間の形成による地域住民の元気を取り戻す必要がある。

・このような課題を解決するために、「日奈久まちづくり協議会」を中心に地域住民自らが地域のことを考え、行政等と連携しながらまちづくりを進めていく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

●『歴史の香りと温泉情緒が漂うもてなしと元気に満ちたまちづくり』の実現

・八代市総合計画前期基本計画において、「重点プロジェクト(人が集まるまちプロジェクト)」として交流拠点の整備を進めることにより日奈久地域の再生を図ると位置づけられている。

・都市計画マスタープランにおいて、日奈久地域については、埋立地への新しい機能立地を図りつつ既存の温泉街と一体となった観光・保養ゾーンとして位置づけられている。

・平成18年に策定された「日奈久まちづくり羅針盤」では、『歴史の香り漂うまちづくり』を将来ビジョンとした、日奈久地区の活性化を図るために実現可能な具体的方策が提案されている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 観光入込客数	人/年	日奈久地区の入込客数	温泉センターを核とした“もてなし空間”として、市内外に一定レベル認めていただいた結果として、平成18年を基準に約10%増を目指す。	113,351人	H18	125,000人	H24
2. イベント参加者数	人/年	本地区を舞台とした各種イベントへの参加者数	これまでの本地区にはないイベント等を開催し、新たな交流を促進した結果として、本地区を舞台とした各種イベントへの参加者数を平成18年度を基準に約20%増を目指す。	6,000人	H18	7,200人	H24
3. まちづくり活動への参加者数	人/年	地域のまちづくりに関する会議・活動への参加者数	快適空間の確保に向けての検討を進めるにあたっては、地区住民が自ら考えるまちづくり活動の盛り上がりが必要となる。この盛り上がり方が地区住民の元気となり、良好な生活環境の形成ひいては住み続けたい快適空間の創出につながることから、平成18年度を基準に約80%増を目指す。	80人	H18	150人	H24

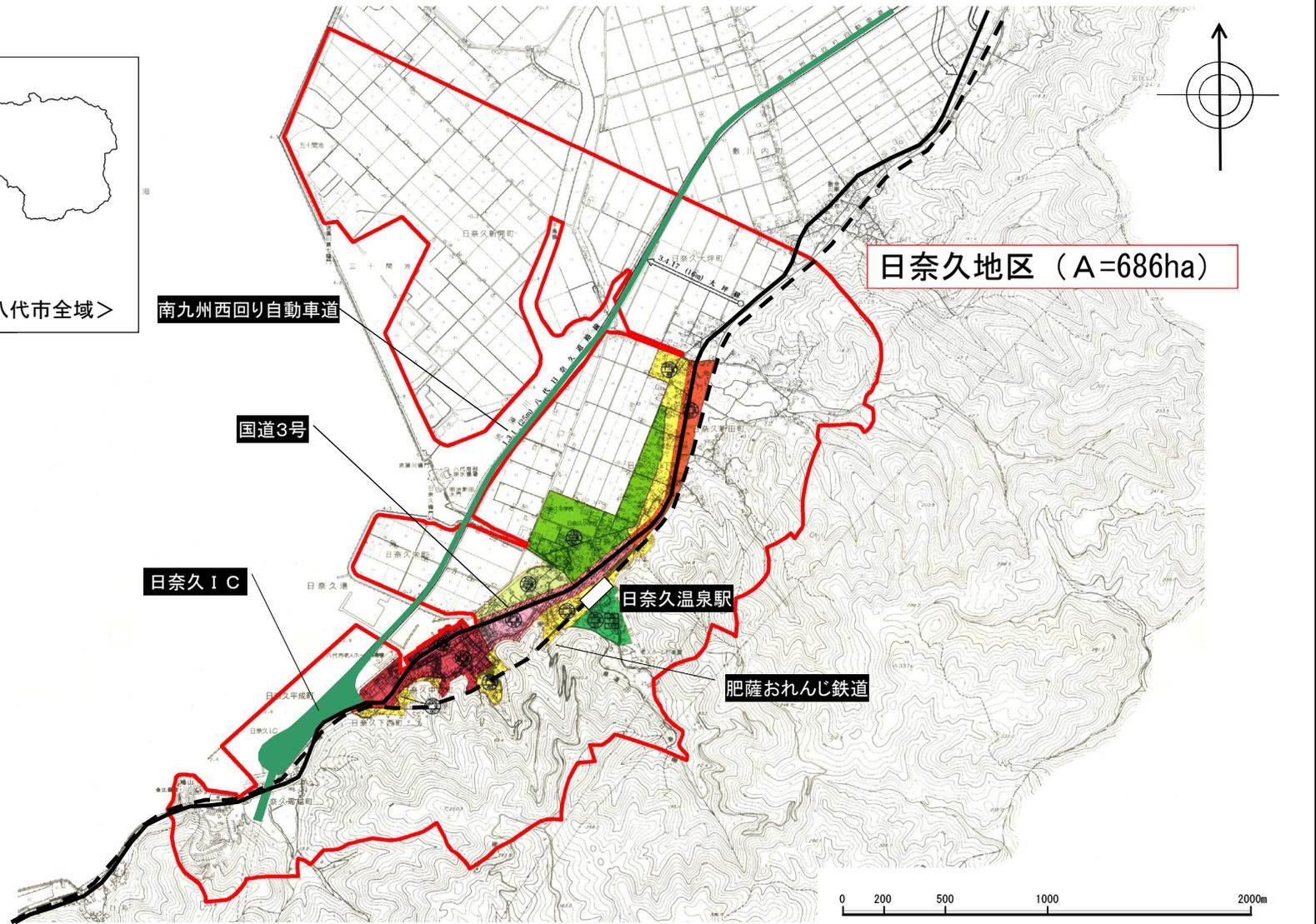
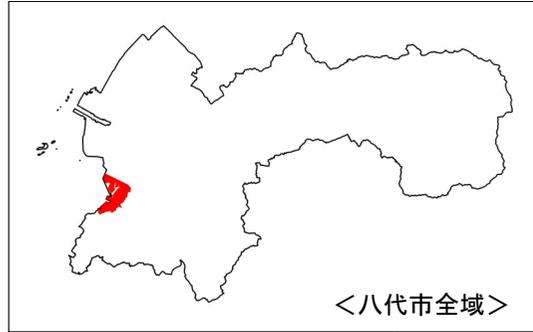
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(来街者誘致活動の推進)</p> <p>(1)「温泉街としての核となる拠点の再生」…日奈久地区のシンボルとして再生させるため、現在の場所に昔の元湯をイメージした温泉センターの改築工事を行う。また、災害時における避難地としての機能を確保する。</p> <p>(2)「開湯600年記念イベントの展開」…日奈久温泉開湯600年を迎えるにあたり、行政サイド等の企画と一体的な記念イベントの企画を行う。</p> <p>(3)「温泉街としての雰囲気づくり」…日奈久らしい景観形成に向けた勉強会を開催し、地域住民の啓発を図り、熟度に応じて、公共空間(道路)と民有空間が一体となったまちなみ景観整備に着手する。</p> <p>(4)「温泉街における回遊性の創出」…温泉センターを核とした温泉街全体での回遊性強化を図るため、地区内の主要な拠点を有機的に結ぶネットワークを形成するとともに、適正に誘導するサイン・案内板の設置等を行う。</p>	<p>温泉センター改築事業【(基幹事業)地域生活基盤施設/市】</p> <p>開湯600年記念イベント【(提案事業)地域創造支援事業/市】</p> <p>景観形成に向けた勉強会開催【(提案事業)まちづくり活動支援事業/市】</p> <p>観光案内板設置工事【(基幹事業)地域生活基盤施設/市】</p>
<p>整備方針2(新たな交流空間の確保)</p> <p>(1)「新たな交流拠点の形成」…日奈久地区における新たな交流拠点を形成するため、埋立地内における基盤整備を推進し、新たな交流の場となる多目的広場を有する公園を整備する。また、公園については災害時の避難場所としての機能を確保する。</p> <p>(2)「新たな交流イベントの展開」…多目的広場を有する公園を舞台としたイベントの企画を行う。</p> <p>(3)「埋立地における利便性向上」…埋立地内のインフラ整備により、自動車交通の円滑な処理を図るなど、埋立地内における利便性向上と民間企業の誘致を推進する。</p>	<p>日奈久ドリームランド「シー・湯・遊」整備事業【(基幹事業)公園/市】</p> <p>日奈久地区活性化事業【(提案事業)地域創造支援事業/市】</p> <p>スポーツ・レクイベントの企画【(提案事業)まちづくり活動推進事業/市】</p> <p>日奈久平成町1号線整備事業【(基幹事業)道路/市】</p> <p>日奈久埋立地事業【(提案事業)地域創造支援事業/市】</p>
<p>整備方針3(快適空間の確保)</p> <p>(1)「地域の活動拠点の形成」…歴史的に価値のある旧JA倉庫については、本地域のまちづくり活動の拠点として活用するとともに、新たな生活拠点として活用できるよう、隣接する織屋との一体的な活用を踏まえた修復を行う。</p> <p>(2)「地区内への通過交通の排除」…地区内を縦断する国道3号においては、昼夜問わず相当の交通量が流れており、こうした幹線道路から地区内へ流入する通過交通を排除するため、バイパスとしての市道平山新町日奈久平成町線(南九州西回り自動車道側道)や市道大坪町塩竈北碓江線の改良を行う。</p>	<p>(仮称)日奈久地域交流センター整備事業(旧JA倉庫改修事業)【(基幹事業)高次都市施設/市】</p> <p>市道日奈久中町日奈久下西町線改良【(基幹事業)道路/市】</p> <p>市道平山新町日奈久平成町線改良【(基幹事業)道路/市】</p> <p>市道大坪町塩竈北碓江線改良【(基幹事業)道路/市】</p>
<p>その他</p> <p>○各施設整備にあたっての住民意向の反映について</p> <ul style="list-style-type: none"> 日奈久温泉開湯600年(平成21年)や九州新幹線全線開業(平成23年度)を間近に控え、新たな観光客獲得に向けて、開湯600年にちなんだイベント開催や、関西、中国地方まで視野に入れた広域的な観光PRの展開等について、官民一体となって検討を行う。 旧JA倉庫の改修工事にあたっては、日奈久まちづくり協議会を主体とした施設の維持・管理を予定しており、改修に着手する前の段階で、より効果的・効率的に施設の活用ができるよう、施設の利用方法や維持・管理方法を整理・確認した上で、実施設計、本工事に着手するものとする。 薩摩街道や温泉街のメインストリートである縦通、中通一帯においては、景観ワークショップ等を活用し、地域住民や温泉旅館の関係者等の意見を反映しつつ、街並みと個人の建物との調和の必要性等についても、周知を行い、温泉街全体としてふさわしい「まちなみの景観形成」や「もてなし空間の形成」に官民一体となって取り組んでいく。 <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種事業を円滑に進めるとともに、目標の実現に向けて確実な効果をあげるために、庁内に横断的な組織を設置し、計画の進行管理、事業間の調整を行う。また、各種の事業に対する市民の理解と協力を得るためにも、各種事業の進捗状況を適宜、市民に情報公開する。 <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業終了後についても、温泉街の再生と地域の活性化を推進するため、「日奈久まちづくり協議会」や各種団体との連携を図るとともに、地域住民を主体とした取り組みに対する支援を行い、市民と行政との協働による地域特性を生かした特色あるまちづくり活動を継続的に推進する。 また、熊本高等専門学校 八代キャンパス(旧:八代工業高等専門学校)との連携により、本地区のまちづくりを専門的な角度から調査・分析するとともに、学生らの人的資源を活用し、新たな交流を活性化させる等、産・学・行政の連携によるまちづくり活動を推進する。 	

都市再生整備計画の区域

<p>日奈久地区(熊本県八代市)</p>	<p>面積 686 ha</p>	<p>区域 日奈久大坪町、日奈久新田町、日奈久山下町、日奈久竹之内町、日奈久新開町、日奈久塩北町、日奈久塩南町、日奈久浜町、日奈久東町、日奈久中町、日奈久上西町、日奈久中西町、日奈久下西町、日奈久馬越町、日奈久平成町</p>
----------------------	------------------	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



日奈久地区(熊本県八代市) 整備方針概要図

目標	歴史の香りと温泉情緒が漂う もてなしと元気に満ちたまちづくり	代表的な 指標	観光入込客数 (人/年)	113,351 (平成18年度) → 125,000 (平成24年度)
			イベント参加者数 (人/年)	6,000 (平成18年度) → 7,200 (平成24年度)
			まちづくり活動への参加者数 (人/年)	80 (平成18年度) → 150 (平成24年度)

